

第41回 滋賀県社会福祉学会 開催案内

(自由研究発表・実践報告、シンポジウム／ひたすらなるつながりフォーラム)

- 開催日 令和5年(2023年)2月22日(水)
9:30~16:30(9:00受付)
- 会場 滋賀県立長寿社会福祉センター
(草津市笠山七丁目8番138号)
- 定員 300名

テーマ

「若者の声から『共に生きる』を考える
～私たちがつなぐ未来へのバトン～」

主催 滋賀県社会福祉学会

(事務局/滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会)

第41回 滋賀県社会福祉学会 開催のご案内

学会テーマ

「若者の声から『共に生きる』を考える ～私たちがつなぐ未来へのバトン～」

1 趣 旨

滋賀県社会福祉学会は、昭和58年よりスタートし、県内の様々な分野の方々に参画いただきながら、滋賀ならではの社会福祉の実践や不断(普段)の研究を共有し学び続ける場として創り上げてきました。

第41回となる今回の学会では、未来へとつながる現場での実践を、より多くの方に知っていただくことを目的として、昨年度に引き続き「研究発表」に加え、「実践報告」の場も設けています。

また、滋賀ならではの福祉の価値を生み出してきた滋賀の福祉人の現場力を共有し、誰もが暮らしやすい未来の福祉実践の創造へつなげる場として開催します。

2 主 催

滋賀県社会福祉学会(事務局:滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会)

3 日 時

令和5年(2023年)2月22日(水) 9:30~16:30(受付 9:00~)

4 会 場

滋賀県立長寿社会福祉センター(滋賀県草津市笠山7丁目8-138)

5 日 程

9:00~9:30	9:30~9:45	9:45~9:50	9:50~12:20	12:20~13:20	13:20~16:00	16:00~16:30
受 付	開会式	オリエンテーション (各分科会)	自由研究発表 実践報告	昼食休憩	シンポジウム	閉会式 (奨励賞・実践賞 発表)

6 参加対象

社会福祉従事者、医療・保健関係者、教育関係者、SDGs・社会貢献に関心のある企業・団体関係者、ボランティア、地域福祉活動実践者、学生、福祉に関心のある人

7 参加費(資料冊子代)

一般参加者・発表参加者 1,000円
大学・短大・専門学校等学生、高校生以下 無 料

8 定員

300名

9 申込方法

- 新型コロナウイルス感染症等の対策のため事前申込制とします。
- 参加申込は、以下のいずれかの方法をお願いします。
 - ① 右記申込フォーム(二次元コード)よりお申込みください。
 - ② 滋賀県社協のホームページ(<http://www.shigashakyo.jp/>)から申込書をダウンロードいただき、メールで「shiga-gakkai@shigashakyo.jp」あてに送付してください。
 - ③ 別紙「一般参加申込書」に必要事項をご記入のうえ(FAX077-567-5160)に送信してください。



▲申込フォーム

10 参加申込締切

令和5年(2023年)2月15日(水)

※定員に達した場合は、締切期日前でも募集を終了いたします。(事前申込必須)

11 手話通訳等

<午前プログラム>

- 自由研究発表・実践報告の時間帯(分科会)において、手話通訳、要約筆記等をご希望の場合は、申込み時にその旨をご記入ください。

<午後プログラム>

- シンポジウム/ひたすらなるつながりフォーラムについては、手話通訳、要約筆記を配置いたします。

12 昼食

各自でご用意ください。

13 滋賀県社会福祉学会における感染対策について

- 消毒、換気の徹底(各会場前に消毒液の設置・会場の定期的な消毒・換気)
 - 参加者同士の距離の確保(仕切りや間隔を空けた配置)
 - 来場者の検温・消毒・手洗い・マスク着用の協力の徹底
- なお、体温が37.5℃以上あるなど体調が優れない方には、参加をご遠慮いただきます。

※今後の新型コロナウイルス感染症の流行状況により、急遽開催方法が変更となる場合もございますので、ご了承ください。その際は、滋賀県社会福祉協議会ホームページにてお知らせいたします。

- この「プログラム」や当日配布する「学会要旨集」をご覧のうえ、各自が聞きたいと思う発表に自由に参加することができます。
- 分科会間の移動は自由です。ただし、発表中の移動はご遠慮ください。
- 新型コロナウイルス感染防止のため、各会場での入場制限を設けております。会場が定員になりましたら、他分科会への参加にご協力をお願いいたします。

自由研究発表・実践報告 (9:50~12:20)

自由研究発表は、社会福祉関係者が日頃から行っている活動や他に先駆けて実施している取り組みなど実践を通して得た発見や示唆を発表し、関係者みんなで学び・励まし合う貴重な場です。

この場で発表・検討されたことがお互いの活動意欲と実践を高め、滋賀の社会福祉向上につながればと思います。なお、本年度も、未来へとつながる現場での実践を、より多くの方に知っていただくことを目的として、実践のご報告もいただきます。

1) 発表・報告時間 1題につき、発表・報告15分 質疑応答7分 計22分

※各発表・報告の間には、転換・換気の時間として8分を設けさせていただきます。

2) 自由研究発表・実践報告(分科会)分野及び題数 30題

分科会	分 野	題 数
分科会1	高齢者福祉①	5題
分科会2	高齢者福祉②	5題
分科会3	障害者福祉①	5題
分科会4	子ども・若者①	5題
分科会5	地域福祉①／子ども・若者②	5題
分科会6	地域福祉②	5題

分科会の詳細は5~6ページに掲載しています。

3) 滋賀県社会福祉学会 奨励賞・実践賞

自由研究発表の中から「滋賀県社会福祉学会奨励賞」を選び、研究を奨励します。

また、実践報告のうち、今後の実践・研究に期待ができる報告について、「滋賀県社会福祉学会実践賞」を授与いたします。

※研究誌「滋賀社会福祉研究」は第25号をもって休刊いたしますので、本年度、奨励賞レポートのご提出ならびに研究誌への掲載はございません。

4) 個人情報の保護

発表のなかには、実際の事例等を取り上げたものがあります。事例は発表者が自らの研究成果を披露し、討議することで、参加者と共に研鑽を図ろうという意味で提供されるものです。発表者および参加者は、法令等に基づき、個人情報を保護してください。

学会シンポジウム／ひたすらなるつながりフォーラム (13:20~16:00)

学会テーマ

「若者の声から『共に生きる』を考える

～私たちがつなぐ未来へのバトン～」

私たちは、滋賀県内で実践をすすめる中、出会った課題に対して「我が事」として様々な形でアクションを起こしている若者たちに出会ってきました。

今回は、そのような若者たちが活動を始めたきっかけや原動力、現在、様々な施策や支援の輪が広がっている中で感じていることなどについて、若者の声を聞き、「共に生きる」ために私たちは今何ができるのかについて考える場として開催します。

コーディネーター

谷口 郁美

滋賀県社会福祉協議会 専務理事／事務局長

2003年より滋賀県社会福祉協議会職員となる。滋賀の縁創造実践センター創設に準備段階からかわり、2019年から事務局長、2022年から専務理事。かつての仕事で出会った子どもたちや保護者、地域の方々のこととこが今の仕事の土台。「度胸と謙虚なところ」で一步でも進みたいと願う日々。



シンポジスト

麻生 知宏さん

NPO法人 Since 代表理事

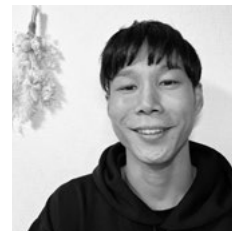
1998年生まれの24歳。中学校にて不登校を経験。適応指導教室、単位制高校を経て、滋賀大学教育学部に入学。そこで出会った仲間と共に3人でNPO法人Sinceを設立。誰もが健やかに育つ社会を目指して、フリースクールを運営している。



今村 崇志さん

I.キャンパス 代表

2018年4月にボランティア団体「I.キャンパス(アイドットキャンパス)」を立ち上げる。同年7月から「緑のはらぺっこ食堂」という子ども食堂を開き、周りの方に支えられながら、現在も活動が続いている。



清崎 鈴乃さん

NPO法人サニーサイド・シェア
スペースhinata

尼崎市に住む、23歳。母、3歳下の知的障害がある弟、6歳下の妹の4人家族で育ち、かるがも～学生きょうだい児の会～を学生時代に立ち上げ運営。現在は、まちの中で障害の有無に関わらず人と人が出会い繋がるまち、家族まるごと支援に奮闘中!



佐藤 すみれさん

NPO法人 やんちゃ寺 代表

大学で心理学を学び、臨床心理学の大学院を卒業。認定心理士、臨床心理士、公認心理師資格取得。滋賀県の小中学校、高等学校や非行少年・少女の支援施設、自殺防止相談の機関等で、臨床心理士(カウンセラー)として勤務。公的機関につながるほどの問題行動が現れていないうちからつながれる民間の居場所として、やんちゃ寺を設立。



平田 イヴィさん

かんちゃんの小さな家 運営スタッフ

ブラジル出身。10歳で来日。来日直後はまったく日本語が分からず日本の小学校に入学。日本語学習の難しさや文化の違いを経験しながら小中高の学生生活を送る。「違い」を学ぶ楽しさと必要性に気づき、大学時代に1年間カナダへ留学を経験し、視野が広がる。大学卒業後は日本在住外国人のサポートに携わる仕事やボランティア活動を継続。



松崎 雛乃さん

ひなしゅしゅ 代表/デザイナー

1995年生まれ、滋賀県在住。17歳で人間関係に悩みひきこもり、高校を中退。3年間ひきこもったのち高校程度認定試験を受け、京都芸術大学に進学。卒業後も在学時から行なっている「外に出ることを助ける服」の制作を通じた活動をしている。



黄瀬 絢加

滋賀県社会福祉協議会
地域福祉課 福祉総務係 主任

湖南市で地域おこし協力隊として3年間活動後、民間企業に就職。もともと子どもの居場所づくりをしたいという思いがあり、子ども食堂支援での募集があったことをきっかけに、滋賀県社協へ入職。



閉会式 (16:00~16:30)

第41回滋賀県社会福祉学会 自由研究発表・実践報告 分科会一覧

分 科 会 (分 野)	第1分科会 (高齢者福祉①)	第2分科会 (高齢者福祉②)	第3分科会 (障害者福祉①)	第4分科会 (子ども・若者①)	第5分科会 (地域福祉①/子ども・若者②)	第6分科会 (地域福祉②)
第1発表 (9:50~10:20)	【研究発表】 介護老人保健施設におけるリハビリテーションの効果～入所時の認知機能の差による日常生活動作の改善と在宅復帰について～	【研究発表】 はじめよう貯筋体操～筋力トレーニングによる身体づくり～	【研究発表】 メンター制度の活用について～新入職員が働きやすい職場にするために～	【研究発表】 官民共創による児童虐待防止における取組の効果と課題	【研究発表】 介護現場におけるペット問題についての一考察	【研究発表】 滋賀県排尿支援プロジェクトの取り組み～排尿サポートの育成について～
	【発表者】 社会医療法人 誠光会 介護老人保健施設 草津ケアセンター ○森本 康弘	【発表者】 社会福祉法人 青祥会 介護老人保健施設 坂田メディケアセンター ○山田 直人	【発表者】 社会福祉法人 滋賀県障害児協会 湖北タウンホーム ○西山 和秀	【発表者】 日野町子ども支援課 ○鎌田 宗純	【発表者】 人と動物の福祉を考える会議 ○藏田 和美、江原 由里子	【発表者】 滋賀県健康医療福祉部医療福祉推進課 ○久保 亜紀、高田 佳菜
第2発表 (10:20~10:50)	【研究発表】 コロナ禍での事故予防と感染症対策の両立に向けて	【研究発表】 滋賀県各市町での介護保険独自ルールの違いについて	【研究発表】 遊びを通して自己肯定感を高める～放課後等デイサービスの実践より～	【研究発表】 居場所・フリースクール等の認知方法と利用条件	【実践報告】 目に見えない障がい理解を図る活動について～擬似体験で気づくこと～	【実践報告】 共生社会の実現を目指して～立志寮の立ち上げと実践事例から～
	【発表者】 社会福祉法人 青祥会 介護老人保健施設 長浜メディケアセンター ○中島 隆博	【発表者】 滋賀県介護支援専門員連絡協議会 ○前田 岳史	【発表者】 放課後等デイサービスさぼてん ○福村 敏明	【発表者】 NPO法人 Since ○生鷹 幹太	【報告者】 NPO法人 近江八幡市手をつなぐ育成会(発達障がいと知的障がいのある人の疑似体験型啓発キャラバン隊 花bee) ○越後 美穂	【報告者】 合同会社 ONE TEAM 滋賀(令和立志寮) ○矩 宏彰
第3発表 (10:50~11:20)	【実践報告】 グッツバイ、腰痛。～キックオフから今日までの取り組み～	【実践報告】 新しい風～利用者との思い出作りの時間を増やす為に～	【実践報告】 MMK(もてもてもて困る)サークルの10年～コロナ禍の分断と孤立を乗り越える絆～	【研究発表】 自立に関する認識調査(第二報)～当事者・職員・企業の認識～	【実践報告】 ゆるやかなご近所福祉活動をめざして～ボランティアが地域でできるアウトリーチ活動～	【実践報告】 社会福祉士から見た「出張講座」立ち上げと地域との繋がり
	【報告者】 社会福祉法人 慈恵会 特別養護老人ホーム ゆいの里 ○村澤 慎也	【報告者】 特定非営利活動法人 宅老所心 小規模多機能型居宅介護事業所 心 ○西川 友美	【報告者】 一般社団法人 no-de ○高木 伸吾	【発表者】 滋賀県児童福祉入所施設協議会 調査研究部会 ○堺 稔	【報告者】 eこころステーション甲賀・スマイル甲賀 ○井村 龍造	【報告者】 医療法人 幸生会 琵琶湖中央リハビリテーション病院 健康福祉事業課 ○上嶋 美由紀

第4発表 (11:20～11:50)	【実践報告】 ノーリフトケアの実践～利用者・介助者の負担軽減と自立支援を～	【実践報告】 利用者と地域をつなぐ活動「まだまだ出来る」を大切に活動を考える	【実践報告】 単独型短期入所事業所「西の湖自立の家」の設立と6年間の歩み	【実践報告】 自立に関する認識調査(補足報告)～当事者の声を聞いてみて～	【実践報告】 おうみはちまん親子応援プロジェクト～地域のつながりからみんなで子育てを見守るまちづくり～	【実践報告】 コープしが地域福祉の取り組み～人のつながり、地域諸団体とのネットワークを活かした地域福祉への関わりについて～
	【報告者】 社会福祉法人 近江いちろば会 ぼだいじデイサービスセンター 虹 ○上西 忍、高岡 拓人	【報告者】 社会福祉法人 米原市社会福祉協議会 デイサービスセンター 行こ家のとせ ○丸本 由加理	【報告者】 特定非営利活動法人 とまり木 西の湖自立の家 ○村井 竜雄	【報告者】 滋賀県児童福祉入所施設協議会 調査研究部会 ○鬼塚 晶寛	【報告者】 NPO法人 Moms fun (おうみはちまん親子応援団 『ばびぶべぽ』) ○秋村 加代子	【報告者】 生活協同組合コープしが組織広報部 ○川村 伊都子、末崎 有希子、石崎 陽子
第5発表 (11:50～12:20)	【実践報告】 褥瘡予防とポジョニングについて	【実践報告】 地域の方と「認知症になっても住みやすい地域づくり」について考える	【実践報告】 医療的ケアの増加が及ぼす職員の身体的負担についてとその対策～DIYで負担を軽減～	【実践報告】 小嶋会の法人内研修の取り組み	【実践報告】 仕組みとサポートと連携でひきこもり支援に取り組む～米原市若者自立ルームとおおぞらの事例をもとに～	【実践報告】 社会教育活動7年目に見えてきた「甲賀市夢の学習事業」～フレイル予防から甲賀市全域のフリースクール～
	【報告者】 社会福祉法人 誠光福祉会 特別養護老人ホーム えんゆうの郷 ○植谷 彰夫	【報告者】 鈴木ヘルスケアサービス株式会社 彦根市地域包括支援センター すばる ○田附 光、中川 吉彦	【報告者】 社会福祉法人 びわこ学園 障害者支援センターかなえ ○水流 寿子	【報告者】 社会福祉法人 小嶋会 小嶋の家 ○日高 斗樹	【報告者】 特定非営利活動法人 就労ネットワーク滋賀 ○朽木 弘寿	【報告者】 特定非営利活動法人 地域で創る土曜日夢の学習 ○摺本 圭治

※テーマ名、発表・報告者名は変更することがあります。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和4年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

保険金の種類		基本プラン	天災・地震補償プラン	【新設】特定感染症重点プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術 入院中の手術	65,000円		
	保険金 外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額	4,000円		
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*) 初日から補償		
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		
年間保険料		350円	500円	550円

*4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。

例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00～17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30～17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

〈SJ21-10723より抜粋して作成〉

滋賀県社会福祉学会事務局

滋賀の縁創造実践センター

滋賀県社会福祉協議会 地域福祉課 福祉総務係

〒525-0072 草津市笠山七丁目8番138号 県立長寿社会福祉センター内

電話: 077-567-3924 FAX: 077-567-5160

e-mail: shiga-gakkai@shigashakyo.jp